

【今日の説教から】

「この世を去ってキリストと共にいること…実は、その方がはるかに望ましい」と語ったパウロですが、「しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのためには、さらに必要である。わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。…わたしが再びあなたがたのところに行く。」と確信をもって語るパウロなのでした。

何がパウロをそこまで強くし、彼を愛の人として歩み続けさせたのでしょうか。

「ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。…あなたがたが…一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い、」とありますように、彼をそこまでさせたのは福音、神の良い知らせであるイエス・キリストでした。彼はイエス様に魅せられ、彼の人生はこの良き知らせによって一変しました。

しかしそこには内にも外にも敵対する人々がありました。狼狽し、脅かされたじろぎそうになったこともあるでしょう。しかし、キリストイエスを信じることはキリストの苦しみにあずかることをも賜ることなのですと彼は語ります。

どんなに力強く、誰の目に見ても明らかに反対する者の勢力が強く、打ち負かされたように見えたとしても、それは彼らの滅びのしるしであり、私たちには救いのしるしである。神様がそれを成してくださいませ。私たちは常にキリストの苦難とともに復活にあずかる者なのです。

皆様、おはようございます。9月もいよいよ折り返しとなりました。日中はまだまだ夏の暑さですが、いよいよ来週には涼しくなってくる兆しです。どうぞ皆様ご自愛ください。

さて、ピリピの1章の締めくくりです。

前回の箇所ではパウロの苦悩が語られました。

1:15 一方では、ねたみや闘争心からキリストを宣べ伝える者がおり、他方では善意からそうする者がいる。

1:16 後者は、わたしが福音を弁明するために立てられていることを知り、愛の心でキリストを伝え、

1:17 前者は、わたしの入獄の苦しみに更に患難を加えようと思って、純真な心からではなく、党派心からそうしている。

キリストを宣べ伝える、教会の家族、教会の仲間うちにあつてさえも、ねたみや闘争心、党派心がはびこっていたのです。更には異端との戦いや、そして外には彼をこうして投獄するところのユダヤ教との戦いがありました。内にも外にも敵対する勢力があり、彼の入獄の

苦しみの上に患難が増し加わるのでした。そして彼はついに、「わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい」というような心情の吐露をするのです。

1:21 わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。

1:22 しかし、肉体において生きていることが、わたしにとっては実り多い働きになるのだとすれば、どちらを選んだらよいか、わたしにはわからない。

1:23 わたしは、これら二つのものの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい。

しかしこれは彼の言いたいことではありませんでした。そういう彼の切実な思いは心に深くあるにしても、彼の本心はそれに勝って強いということが続いて述べられているのです。

1:23 わたしは、これら二つのものの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい。

1:24 しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのためには、さらに必要である。

(新共同訳) 1:23 この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。

さらに必要なこと、それは私が肉にとどまってあなたと共にいて、あなた方のためになるということだと、それがさらに必要なことなのだと言いつつ切ります。ここにはどのような板挟みも、どちらを選んだらよいか分からないという迷いもありません。

1:24 しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのためには、さらに必要である。

1:25 こう確信しているので、わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。

1:26 そうなれば、わたしが再びあなたがたのところに行く…。

パウロがどんなにか自らの思いを捨てて、キリストのゆえに喜んで一つの道を選び取っているかが分かるこの文面です。彼にも自らの平穏を願う思いは確かにあるのです。そしていくばくかの迷いや、安息を熱望する思いは確かにあるのです。しかしそれに増して、その自らの思いに増して、あなた方のためには自分が肉体に留まることは自らの熱望よりも、はるかに望ましいことをも上回ってさらに必要なことであり、それは彼の確信であり、「わたし

は生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。…わたしが再びあなたがたのところに行く」という切なる思いなのです。

どうして彼は自分のことを脇に置いてこんなにも熱烈に教会の兄弟姉妹たちのために尽くすことが出来るのでしょうか。そのことが今日の箇所を書いてあるのです。

1:27 ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そして、わたしが行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたが一つの霊によって堅く立ち、一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い、

1:28 かつ、何事についても、敵対する者どもにろうばいさせられないでいる様子を、聞かせてほしい。このことは、彼らには滅びのしるし、あなたがたには救いのしるしであって、それは神から来るのである。

27-28節はギリシャ語ではひとつなぎの文章です。

生きなさい、人生を過ごしなさい、身を処しなさい、ただ唯一、キリストの福音にふさわしく生活しなさい。

あなた方が霊においても心においても、心の奥底から、自分の肉体のいのちにおいても、福音の信仰において共に戦うこと、固く立ち上がって戦っているということを聞きたい。あなた方に敵対する者に関しては、何にも全く恐れることはない。その敵対するという行為自体がすでに滅びのしるしであり、徹底的な破滅であり、しかしあなた方には神様の救いのしるしがあるから、福音にふさわしく生活し、福音の信仰のゆえに心固く共に心を合わせて戦いなさいとパウロは語るのです。

この箇所を読んで思うことは、どんなに過去の福音に生きるということに対して妨害を受け、気をそらされるのかということと、心と霊とを合わせて福音のために戦い進むことを阻害するための働きがあるのかということです。それは狼狽させられ、脅され、恐怖心を植え付けられるような方法でなされます。それはただの怠け心や、多に何か価値あるものをぶら下げて私たちの気をそらすような生半可な方法ではなくて、私たちが一つ心になって福音のために戦うことをしないようにするために恐れを抱かせる方法であると聖書は語ります。

日に日に恐怖は高まり、身の危険を覚えて、命からがら逃げだすのです。神様の霊にあって一つ、心の底から命を懸けて進むと心強く決心しても、それをなし崩しにするために恐れと恐怖とをもって、将来の心配と不安との気持ちを駆り立てて、私たちが福音にふさわしく生

活できないようにする力が働いているというのです。それが敵対する者たちの働きなのです。

しかしここには神様からくる助けがあるのです。

1:28 かつ、何事についても、敵対する者どもにろうばいさせられないでいる様子を、聞かせてほしい。このことは、彼らには滅びのしるし、あなたがたには救いのしるしであって、それは神から来るのである。

神様は敵対する力を打ち砕き、徹底的な荒廃と破壊をもたらすのです。そして私たちにはみじんも恐れのない導きをお与えになられ、忍耐をもって一つ心になって助け合い進む信仰に戦う者たちに、その福音に根差して生きる姿がすなわち救いのしるしだと語られるのです。

福音とは良き知らせですが、何が良き知らせなのかと言えば、罪深い、救われる道を失ったこの世界に神様は救いのために御子をお送りになられたということです。御子は迫害され、十字架にかけられ、死にて葬られました。それが私たちのための贖いの救いのしるしでした。イザヤ53章のように、屠られる羊のように黙して進む、そして命が果てることこそが私たちの救いのしるしだったのです。ですから、たとえ私たちの身に迫害や困難が付きまとったとしても、私たちは何か驚くべき意外なことが起こったというように、何も恐れることはないのです。私たちがキリストにつながれているということ、それが福音にふさわしく生きるということであり、そうしてキリスト共に苦難にも預かるということが私たちにとっていのちと救いとにつながっているということなのです。私たちにとってこの地上で即時的にすべての悩みから苦痛から、困難から救われるということは、一面的には非常にありがたいことなのですが、しかし福音にふさわしく生活するという中においてはそれがいつも当てはまるとは限らないのです。

1:29 あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じるだけでなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。

1:30 あなたがたは、さきにわたしについて見、今またわたしについて聞いているのと同じ苦闘を、続けているのである。

私たちがキリストのために賜っていること、私たちのいのちの恩人であるキリストイエス様と共に進むために私たちが賜っている者とは、彼を信じるという私たちの行い、彼を信じるという目的のために生きる人生と共に、苦しみをも賜っているのです。

パウロが獄中で苦しみつつ自らを捧げ尽くして、自らの将来をかなぐり捨てて仕えている姿を私たちは知らされましたが、それと同じ苦闘を、もがき、あがき戦う苦闘、奮闘、もみ合い、戦い、敵対し、心配し、不安になり、懸念をたくさん得て、いつも追われて競争しているような終わりのない戦いを賜ってもいるのだと聖書は語るのです。

それが福音にふさわしく生活するということです。私たちの願望と異なる、何か強いられた人生ですが、その中にこそ救いのしるしが輝いているのです。

大切なことは、私たちが霊においても心においても一つになってイエス様が与えてくださった良き知らせのゆえに戦い抜くことなのです。そこには苦難はありますが、恐れは微塵にもありません。

私たちに神様から賜っているもの、それは信じるという生き方と共に苦しみです。信じるということがただ安息へと導かれるのではなくて信じるのが苦しみにつながるということです。私たちはそのことを受け入れることが出来るでしょうか。

そのためにイエス様が、そしてパウロたち信仰の先輩たちが私たちのお手本なのです。私たちの受けている苦難は、私たちだけのものではなくて、もう信仰の先人たちが通った道なのです。

どうか狼狽することなく、たじろぐことなく、恐れ惑うことなく、信仰と共に授かる苦難を前にして、いよいよそれが福音にふさわしい、キリストの苦難にあずかる私たちの人生だと悟って、神様の霊に支えられ、互いの心の底から思いを一つにして固く立ち、どんな困難な状況であろうとも、そういう風にして福音のために敵対する者、その状況から苦難を受けていることこそが救いのしるしであることを心に喜び刻んで耐え進もうではありませんか。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちがキリストの福音、キリストにある良い知らせのうちに守り、進ませてくださいましてありがとうございます。私たちにはこの福音を信じる戦いの中にあっても神様の救いが常に働いており、何者をも恐れることはないようにされています。キリストを信じることはキリストのために苦しむこと。パウロについて見聞きしていることがやがて私たちの身に及ぶときにも、恐れを取り除いて救いの中にお守りください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン